

## 自己評価報告書

平成23年 5月 6日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2008～2012

課題番号：20390540

研究課題名(和文) プロフェッショナルキャリア形成を導くフィジカルアセスメント教育モデルの構築と評価

研究課題名(英文) THE STUDY FOR ESTABLISHING AND EVALUATING ON EDUCATIONAL PROGRAM FOR PHYSICAL ASSESSMENT BY HEALTHCARE PROFESSIONALS.

研究代表者

山内 豊明(YAMAUCHI TOYOAKI)

名古屋大学・医学部・教授

研究者番号：20301830

研究分野：フィジカルアセスメント

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護技術・フィジカルアセスメント・看護教育・訪問看護・シミュレータ

## 1. 研究計画の概要

本研究では看護基礎教育から医療施設場面・在宅現場を視野に入れた継続教育まで、一貫性のあるフィジカルアセスメント教育システムの構築の開発を目指すものである。

研究(1)では、教育の現場と臨床の現場の両者が求める看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズを明らかにし、教育内容の検討を目的とする。そのために研究(1)においては、教育の現場で得られたフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズを見直し、臨床の現場が看護基礎教育に求める教育内容を明らかにするための質問紙を作成し、臨床の現場が看護基礎教育に求めるミニマム・エッセンシャルズのコンセンサスを得る。臨床の現場でコンセンサスが得られた看護基礎教育に求めるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズを、教育の現場に示し、コンセンサスが得られるかを調査する。

研究(2)では、研究(1)の教育内容について集合教育と個別的教育との有機的連携を図ることにより、学生を対象としたフィジカルアセスメントの集合教育および個別的教育の方法と評価についての標準化とそれらの相乗効果の可能性及び実効性について明らかにする。そこで研究(2)においては、フィジカルアセスメントの教授に関して、集合教育で伝えられる範囲を越えた部分については個別的な教育的関わりを持つことが出来るようにシミュレータを活用したセルフラーニングを行える教育環境ならびにその運用についての整備を行い、学生個人の学習履歴と教育成果の蓄積から個別指導を

コーチングできるようなマニュアル作成を進め、どの段階でどのようなアウトカム評価が有効であるかについて明確にする。

研究(3)では、研究(2)の成果を継続教育に活用できるか、訪問看護師のための教育プログラムを開発し、その有効性及び実効性について検証していく。研究(3)においては、訪問看護の現状に合わせた教育内容及び教育方法を検討する必要があるため、まず、現在訪問看護に従事している訪問看護師のインタビューをもとに、訪問看護に必要なフィジカルアセスメント能力を構成する要素とフィジカルアセスメントに影響する因子を明らかにする。インタビューの結果と文献を基に、フィジカルアセスメント教育内容、教育方法及び評価方法について検討し、教育プログラムを作成し、訪問看護に従事している訪問看護師を対象に作成した教育プログラムを提供し、その教育プログラムの実現性及び実効性について明らかにする。

本研究では「何を教育するか」「どのような方法で評価するか」「その評価をどう活かすか」というものを別個にすることなく一本化したものとして進めるために、上記の3つ研究のプロジェクトを連携させ、相互間の関連性の有効性をも見出すことを目指す。それと並行して内外の文献を検討しリソースを集めると同時に、より効果的なフィジカルアセスメント教育の方略を検討し、パイロットスタディの蓄積を行う。最終的には教育の現場と臨床の現場の両者からコンセンサスを得たミニマム・エッセンシャルズを盛り込んだフィジカルアセスメントの教育内容を明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

研究(1)では、臨床の現場でコンセンサスが得られた看護基礎教育に求めるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズを教育の現場に示しコンセンサスが得られるかについて調査し、その実効性についてさらに検証したものを、実際の教育現場での運用を開始した。基礎教育ならびに継続教育の現場でのエッセンスとして有効性が認められつつある。

研究(2)では、フィジカルアセスメントの教授に関して、集合教育で伝えられる範囲を越えた部分については個別的な教育的関わりを持つことが出来るようにシミュレータを活用したセルフラーニングを行える教育環境ならびにその運用についての整備を行ったことにより、実際のセルフラーニングが動き始めた。個人の学習履歴と教育成果の蓄積から個別指導をコーチングできるように学習者各自の学習履歴を集積するための機器の整備も含めた、シミュレータ等の総合的有機的な運用システムの構築をならびに各種のデータ蓄積を行うことが可能なように環境整備を進めつつある。

研究(3)では、教育介入方法の検討とその検証のために、現在訪問看護に従事している訪問看護師のインタビューをもとに、訪問看護に必要なフィジカルアセスメント能力を構成する要素とフィジカルアセスメントに影響する因子を整理し訪問看護の現状に合わせた教育内容及び教育方法を踏まえた教育プログラムを作成し、訪問看護に従事している訪問看護師を対象に提供することにより、教育プログラムの実現性及び実効性について明らかにした。その結果、適切な教育支援的介入が有効であることが明らかとなった。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

研究(1)で教育項目のエッセンシャルミニマムが得られ、研究(2)でセルフラーニング環境整備の要点が確認でき、研究(3)で実践現場での学習方略が明らかにできた。

## 4. 今後の研究の推進方策

研究(1)では、実際の教育現場での運用を開始し基礎教育ならびに継続教育の現場でのエッセンスとして有効性が認められつつあるので、更にこれを一般化できるように研究フィールドを広げていきたい。

研究(2)では、今後は実際の学習者データの蓄積並びのその分析を進めていきたい。

研究(3)では、今後はこの成果をより実際の運用ができるような学修支援プログラムへと進化させていきたい。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計86件)

Emiko Shinozaki, Toyoaki Yamauchi, Nursing competencies for physical assessment of the respiratory system in Japan, Nursing and Health Sciences, 11巻、285-292頁、2009年、査読有り

Junko Imaiso, Toyoaki Yamauchi, Caregiver suctioning education for Japanese patients with an invasive home ventilator, Nursing and Health Sciences, 11巻、422-429頁、2009年、査読有り

山内豊明、シミュレーション教育への注目と期待、インターナショナルナッシングレビュー、31巻、14-18頁、2008年、査読有り

[学会発表](計26件)

青山修子、山内豊明、生体シミュレータを用いた呼吸音聴取練習の効果的な教育法に関する検討～学習経験の効果の観点から～、第30回日本看護科学学会学術集会講演集、246、第30回日本看護科学学会学術集会、札幌市、2010年  
松田菜名恵、山内豊明、生体シミュレータを用いた心音聴取練習の効果的な教育法に関する検討～学習経験の効果の観点から～、第30回日本看護科学学会学術集会講演集、247、第30回日本看護科学学会学術集会、札幌市、2010年  
Junko Imaiso, Toyoaki Yamauchi, Utako Sasaki, Kayoko Nozaki, A Delphi Study of Competencies to Perform Tracheal Suction for ALS Patients with Mechanical Ventilation at Home, 19th International Nursing Research Congress Focusing on Evidence-Based Practice, Singapore, 2008年

篠崎恵美子、山内豊明、2007年度全国看護・看護系大学におけるフィジカルアセスメント教育の現状、第10回日本看護医療学会学術集会、60頁、第10回日本看護医療学会学術集会、浜松市、2008年

[図書](計16件)

山内豊明、看護必要度第4版 看護サービスの新たな評価基準、日本看護協会出版会、総頁数257頁、2011年

山内豊明、訪問看護アセスメント・プロトコル、中央法規出版株式会社、総頁数245頁、2009年

山内豊明、ケアの根拠 看護の疑問に答える151のエビデンス、日本看護協会出版会、総頁数184頁、2008年